

語る言葉

大事なのは、言葉より事実なんですよ、きっと。出来事を記憶したり、経験を人に伝えたり、そのために言葉がある。その出来事をどれほど言語化できるか、言語化したときに何か事実が、ゆがんでしまったり、変質してしまったりしないか、そこが勝負なのね。でも一方で、言葉にできたことで一瞬のことが永遠に残る思い出に変えられる。

言葉が歩き出して、他の出来事と重なって、どんな生き始める。事実がはっきりと物語に変わる瞬間！私は、書いた言葉より、語られた言葉で育って来たような気がします。

本を読むのは好きじゃなかったし、今、思い起こしても、本の中の言葉との出逢いが私を変えたというよううなことはないんです。

私の母は、私があるの心ついた頃から、いつも誰かに「語っている」人でした。そばに私をおいて。

自分の子どものこと、中国満州に渡ってからのこと、引き揚げのこと、そして私が小さかった頃のことなど。私は小さい頭で、記憶にはない遠い故郷を思い描き、経験したことを出来事として母から受け取ろうとした。「戦争をしているときだって、人はみな、一対一の人間として向き合わなくちゃ駄目なのよ。敵とか味方に関係なく、人はみんなひとりの人間なんだから。」

終戦の後、収容所に居た私たちは、略奪に來たソ連兵に脅かされることになりましたけれど、そのとき、母は、私をおんぶしてソ連兵に、ロシア語で話しかけたそうです。

「こんにちは、（ズドラーストウヴィチュェー）お元気ですか。（カクポジュバイチュェー）」

人として対等に向き合うために言葉がある。

生きるために、生き抜くために、そして生きたことを記憶し、伝えるために、人が真剣に手繰り寄せた言葉。書く言葉が文化の中心だった日本の社会の中では、語る言葉は、女たちの言葉だったかもしれません。体温の伝わる言葉、いのちまっすぐの言葉。大切にしたいです。



1943年ハルビン生まれ。65年東京大学在学中に、第2回日本アマチュアシャンソンコンクールで優勝し、歌手デビュー。66年「赤い風船」でレコード大賞新人賞受賞。以後、「ひとり寝の子守唄」「知床旅情」「百万本のバラ」などヒット曲を多数発表。歌手としての活動のほかに女優・声優など幅広く活躍中。2000年より国連環境計画（UNEP）の親善大使に就任し、2008年にはニューヨークの国連会議場で活動報告とライブを行うなど、環境保護にも力を入れている。2010年にデビュー45周年をむかえ、ニューシングル「君が生まれたあの日」をリリース、全国ツアーを開始。

<公式サイト> <http://www.tokiko.com/>